

23:1 バラムはバラクに言った。「私のためにここに七つの祭壇を築き、七頭の雄牛と七匹の雄羊をここに用意してください。」

23:2 バラクはバラムの言ったとおりにした。そしてバラクとバラムは、祭壇の上で雄牛一頭と雄羊一匹を献げた。

23:3 バラムはバラクに言った。「あなたは、あなたの全焼のささげ物のそばに立っててください。私は行って来ます。おそらく、

【主】は私に会ってくださるでしょう。主が私にお示しになることを、あなたに知らせましょう。」そして彼は裸の丘に行った。

23:4 神がバラムに会われたので、バラムは神に言った。「私は七つの祭壇を整え、それぞれの祭壇の上で雄牛一頭と雄羊一匹を献げました。」

23:5 【主】はバラムの口にことばを置き、そして言われた。「バラクのところに帰って、こう告げなければならない。」

23:6 彼がバラクのところに帰ると、見よ、バラクはモアブのすべての長たちと一緒に、自分の全焼のささげ物のそばに立っていた。

23:7 バラムは彼の詩のことばを口にして言った。「バラクは、アラムから、モアブの王は、東の山々から私を連れて来た。『来て、私のためにヤコブをのろえ。来て、イスラエルを責めよ』と。

23:8 私はどうして呪いをかけられるだろうか。神が呪いをかけない者に。私はどうして責めることができるだろうか。【主】が責めない者を。

23:9 岩山の頂から私はこれを見、丘の上から私はこれを見つめる。見よ、この民はひとり

離れて住み、自分を国々と同じだと見なさない。

23:10 だれがヤコブのちりを数え、イスラエルの四分の一さえ数えられるだろうか。私が心の直ぐな人たちの死を遂げますように。私の最期が彼らと同じようになりますように。」

23:11 バラクはバラムに言った。「あなたは私に何ということをしたのですか。私の敵に呪いをかけてもらうためにあなたを連れて来たのに、今、あなたはただ祝福しただけです。」

23:12 バラムは答えた。「【主】が私の口に置かれること、それを忠実に語ってはいけないのですか。」

バラムは占い師でしたから、彼なりの占いの方法があったのでしょう。その結果はイスラエルを祝福するものしか出てきませんでした。現代でも占い師や異端や偶像などで、キリストを肯定するようなことを言う人がいるかも知れませんが、それは神として認めて従っているのとは違います。

悪霊でもそれなりの力がありますから、不思議なことで人々を驚かすことくらいはできます。しかしその結果は神様に反することであり、人々を自分と同じように滅びに引きずり込む目的です。

惑わされないようにしましょう。また自分自身のあり方も、紛らわしいものではないかと吟味する必要があります。本当に主に従順なのか、それとも自分の方法や目的に合致しているから、たまたま御心に沿っているのか、考えてみましょう。もしも自分の都合や目的に沿わないような、主の御心が示された場合は、そのことが明らかになります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

